



Mr. 鳴滝塾

# 浜田先生へインタビュー



◆浜田久之（はまだ ひさゆき）先生  
新・鳴滝事務局長。内科医。長崎医療センターで研修医指導に携わり、総合診療病棟を立ち上げる。トロント大学で医学教育を学び、長崎大学病院へ。2011年より医療教育開発センター教授。医学生のマッチングや研修に関する相談に数多く向き合っている。

## 新・鳴滝塾とは

長崎県では、県内全ての臨床研修病院と長崎大学病院の計17病院が協力して研修医の育成にあたっています。その主幹をしているのが新・鳴滝塾。医学生の病院見学時のフォローから研修医の教育まで、連続的な医師育成の体制を敷いています。県内の研修医同士交流できるような機会も設けられ、切磋琢磨できる環境を新・鳴滝塾が用意して皆さんを待っています！少しでも気になったら見学へ行ってみましょう。新・鳴滝塾では一度に複数の病院をみたい場合の見学ルートや日程、見学内容の相談ができます。遠方から見学に行く場合、費用が気になるのですが、これも新・鳴滝塾がカバー。申請を行えば旅費のサポートが受けられます。



新・鳴滝塾が主催した長崎県17病院合同説明会のようす。県内外での広報活動も積極的に行っています。

## 見学申し込みの流れ

見学する病院を決めて、ホームページのエントリーフォームから申し込み。複数病院の希望でもOK！

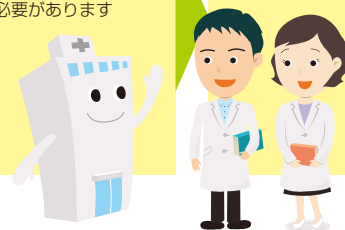


病院担当者から連絡がきます。見学の日程や診療科などの細かい調整はここで。旅費の助成が可能かどうか確認！

※予算の都合により助成の対象にならない場合があります

さあ見学に行こう！  
※助成の対象になった場合、病院見学時に渡される書類に記入する必要があります

見学後、新・鳴滝塾事務局の審査を経て、助成金が付されます



## 新プログラム

1年次に30万円、2年次に30万円の学習補助金が新・鳴滝塾から支給されます！

### 新・鳴滝塾トライアングルコース

長崎大学病院では、2013年4月から初期臨床研修プログラムに「新・鳴滝塾トライアングルコース」を新設します。最大3病院で研修が可能な自由度の高いプログラムです。次ページで浜田先生もこのコースについて話してくださっています！

#### ■パターン①

1年目		2年目		地域医療 1カ月
A病院	B病院	長崎大学病院		
6カ月	6カ月	11カ月		

#### ■パターン②

1年目			2年目	
長崎大学病院	B病院	地域医療	A病院	長崎大学病院
5カ月	6カ月	1カ月	6カ月	6カ月

#### ■パターン③

長崎大学病院8カ月（以上）＋地域医療1カ月を除いた最大15カ月は、2つの病院を自由に組み合わせ研修を行う  
※必ずしも希望が全て通るとは限りませんが、最大限希望が通るように各病院と調整します

### —新しい初期研修プログラムについて教えてください。

浜田先生：新・鳴滝塾の大きなプロジェクトで、新・鳴滝塾と長崎県の17病院が連携し、3カ所を重点的にまわるトライアングルコースとなります（前ページ参照）。これは長崎県全体の大きな特徴にもなります。従来のいわゆるたすきがけのプログラムでは、「大きな病院（大学病院）と大きな病院（市中病院）」となりますが、新しいプログラムではそれに加えて長崎県内の17病院を自由に組み合わせることができます。

例えば、よりプライマリケアの症例を幅広く経験したければ、「大きい病院（長崎大）＋大きい病院＋へき地の病院」でもいいですし、もちろん「大きい病院3つ」での研修も可能です。長崎大学の初期研修プログラムは全体的に自由度の高いものですが、新コースは個人のニーズに合わせて、特に自由にプログラムを組むことができます。

### —コース新設にあたっては、研修医からの要望があったのでしょうか。

浜田先生：研修医からは「もっと違う病院を回りたい」という意見がありました。ただ3つの病院ともなると事務手続上の煩雑さや、引っ越しなどの費用もかかり、現実的には難しかったのです。ただ今回の新しいプログラムでは、事務手続もクリアして、加えて新鳴滝塾が学習援助金として年間30万円、2年間で60万円を支給します。全国的に評判になるようなプログラムにしていきたいと思っています。

### —次に長崎大学病院の研修内容についてお聞きします。大学病院では、プライマリケアが少ないと言われていますが、実際はどうでしょうか。

浜田先生：長崎大学では夜間急患センターやプライマリケア外来研修などがあり、市中病院に劣らないプライマリ症例数があります。もちろん救急も3次まであるので、幅広く経験できる症例があります。1年時の修了時点で約8割

の研修医が、必須症例レポートの7～8割を達成することができており、これを裏付ける結果となっています。また、長崎大学では院外プライマリケア研修を行っており、毎週水曜日に専任教官とともにへき地での外来研修を行っています。移動はヘリコプターと船を使用します。手技についても患者さんの協力も得て、研修医がちゃんとできるようにしています。都会の病院よりも多く経験できると思います。

### —患者さんの協力とは……？

浜田先生：長崎県には「人を育てる雰囲気」があると思います。鎖国時代から続く、人を受け入れて育てるといった文化が培われているからだだと思います。人の言うことに対して拒絶反応を示さないのが長崎県の気質です。患者さんにも「医者育てる」という意識があると、僕は感じています。他の地域ではあまり聞かないことですが、これまで、患者さんから「研修医の先生をつけてください」という方に何人も出会いました。それは、主治医と研修医が2人で回っている時に、患者さんが研修医の一生懸命さに共感し、そのような言葉につながっているのだと思います。

### —最後に、読者へメッセージをお願いします。

浜田先生：6年生は最後の夏。5～6年生はこの夏をエンジョイしてください。マッチングにしろ、試験勉強にしろ、部活にしろ、大変だとは思いますが、その中でも楽しみを見つけて頑張してほしいと思います。医者というのはとても大変な仕事ですが、それでも楽しみを見つけ出すことが重要で、それによって人生が豊かになります。夏はエンジョイして、ぜひ長崎県の病院にも見学に来てください。山も海も奇麗ですよ。

次号予告 ▶ 浜田先生のお話の中にも出てきた長崎大学の院外プライマリケア研修に密着取材してきたようすをお届けします！ 離島の病院の外来で行う大学病院の初期研修とは……!?

### ■お問い合わせはこちら

長崎県医師臨床研修協議会「新・鳴滝塾」事務局  
〒852-8501 長崎市坂本1丁目7-1 TEL 095-865-8351 FAX 095-819-7882 E-mail info@narutaki-jyuku.jp